



「気づき」のためのパーソナルアシスタント

前号で触れたように、コミュニケーションの方向を情報共有から情報創造へ、そしてネットワークを大いなる「気づきの場」へと変えていくには何が必要だろうか。

それを考えることは、われわれ一人一人が行っている思考行為を情報ネットワークの中で連結・集積するための方法論を探ることもある。あらためて「気づく」とはどういうことなのか、またお互いに「気づき」をもたらす「相互触発」という状況ではどのような情報の力学が作用しているのか、さらにそれを促進するためにはどのような仕組みが必要なのか……こうしたことを考えていけば、新しいコミュニケーションを開く何らかのヒントが見えてくるはずだ。

手始めに、現在のPCのあり方がわれわれにどのような影響を与えているかを考えてみよう。

コンピュータがパーソナルな存在となり得たのは、自然言語を扱うことができる能力を手に入れたからだ、という見方がある。だが、あえて先人たちの苦勞を顧みず言い捨てれば、自然言語を扱えるといっても単にキャラクターをコード化したテーブルを設け、文字列の扱いをひたすら「なし崩し」的に拡張し続けただけの話である。

「ワードプロセッサ＝言葉の処理機」の名のとおり、その本質はちょっと気の利いたタイプライター以上の何物でもない。「発想支援」と銘打ってアウトライン機能を備えたものもあるが、知識を階層的に表現することはアイデアの整理に役立っても、利用者自身の「気づき」あるいは「触発」といった働きを支援する機能には乏しい。というより、もともとPC自体がそうした観点からデザインされたモノではないのだ。

たとえば、われわれはちょっとしたきっかけでハッと気づいたり、連想を始めたりする。そして、ほんの一瞬浮かんで消えていくこのひらめきを逃すまいと、われわれはそれを「とりあえずの形」にして手当たり次第書き散らし、とどめておこうとする。こうしたひらめきや思いつきは、決してワープロをタイプするように、リニアに順序だてて浮かんでくるものではない。

アイデアを何かの形にする場合、もっともストレスを感じない身近な方法は「落書き」だろう。思いつくままに言葉を書き、それを や で囲み、線や矢印でランダムに結びながら、さらにそこで浮かんでくる単語や



フレーズを書きこんでいく……「気づき」や「発想」を扱おうとすれば、こういった一連の行為を受け入れてくれる「ゆとり」が必要なのだ。

そう考えると、現在のPCがいかに違った方向を向いてスタートしたか、また、言葉を一音一音タイプし、これを仮名漢字変換していくというワープロ特有の一連の作法が、気づきの片鱗を書きとめること、思いつくこと、考えることをいかに阻害しているかが分かってくる。

確かにハードウェアとしてのPCの高速化、大容量化、低廉化は目覚ましいものがある。だが上記のような観点からPCのヒューマン・インターフェイスを見てみると、インタラクションの幅はGUIの採用で多少広がったものの、その後はディスプレイとキーボード、マウスといった組み合わせが定番化したまま。マルチメディアと言われる割には、ここしばらくインターフェイスの帯域に変化はないし、自由度も上がっていない。

おそらく、PCがこうした機能や形に留まっているのは過去の時代の情報共有指向の影響だろう。機能からしても普及度からしても、確かにこれまでのPCは、情報を整理し、記録して他と共有するためのメディアとしては大きな成果をあげてきた。だが、情報創造という新たな立場から見ると、PCはパーソナルなレベルでの思考支援、創造性支援に貢献するような資質に欠けている。だとしたら、まずパーソナルな情報創造という立場から、現状のPCが持つ限界を打ち破るようなデザインを提案していくことが新たなコミュニケーション環境を実現するきっかけとなるのではなかろうか。

われわれに必要なのは、アイデアをリニアな文字列という枠に入れて固定してしまうのではなく、生きたままの形でそれを取りこみ、改変し、新たなアイデアを想起させるような舞台装置としてのメディアである。次世代の「考えるためのパーソナルアシスタント」をハードウェア、ソフトウェアの両面からデザインしていくことが、気づきの場としてのネットワークを実現するための第一歩になるに違いない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp